

# 大阪市の中学校の校歌の特徴

—歌詞を中心に—

## 抄 録

校歌に共通する特徴について、調べることにした。大阪市の国公立中学校100校の校歌の「地名、色彩、自然、身体表現、校名の有無、作詞・作曲者名」について、よく使われているものを分析した。その結果、附中校歌から類推できた通り、校名や地名など典型的な言葉が入っている学校が多かった。地名では生駒山や淀川が多く、特に川は流域に沿って用いられる傾向があった。自然の表現では空や風、色彩では緑や白、身体表現では命や人見などの言葉が多く用いられた。

キーワード：校歌、歌詞、中学校、大阪市

## 1. はじめに

### 1.1 研究動機

私は以前から、「なぜ校歌は少し聞いただけで校歌だとわかるのだろうか」と考えていた。他の歌とは違う、独特の特徴が歌詞にもメロディーにもあるように感じる。そこで今回、調べてみることにした。

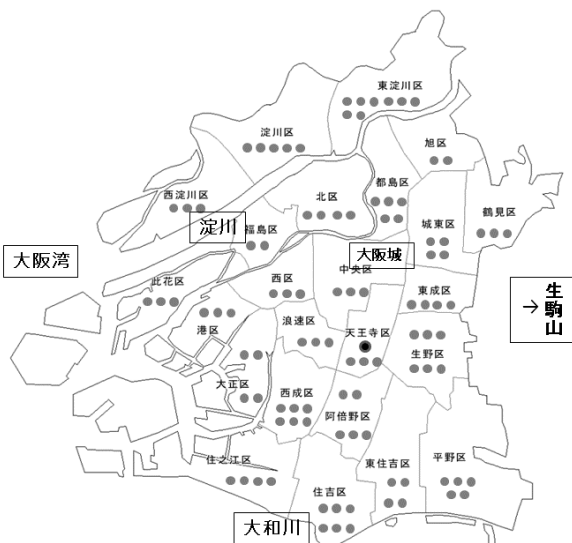
### 1.2 研究目的

大阪市内の国公立中学校の校歌を、歌詞を中心に、よく用いられる言葉や語句、地名など、また作詞・作曲者を調べ、校歌の特徴を分析する。

## 2. 研究方法

### 2.1 調査対象

大阪市立中央図書館にある各校の記念誌やホームページから入手した左図のように本校を含む大阪市内の国公立中学校100校の校歌について、その特徴を分析する



## 2.2 調査方法

附中校歌の歌詞を分析する。それに基づき、校歌に特徴的な内容（地名、色彩、自然、校名の有無、作詞・作曲者）をそれぞれ学校ごとに調べる。

## 3. 結果

### 3.1 <附中校歌の一番>

光 ぞとわに とこしえに	われらは 附属 中学生	はてなき 希望 湧き上がる	空 より広き わが思い	望む 未来の あさみどり	春 の窓辺に たたずみて	耳 にすがしき 上町 の	豎琴 鳴らす 丘の 松
--------------------	-------------------	---------------------	-------------------	--------------------	--------------------	-----------------------	----------------------

#### <気付いたこと>

- ・七五調になっている
- ・「希望」や「光」など、よく使われる文言がある。
- ・「松」や「空」など、自然に関するものが出てくる。
- ・生徒のことを「我」「我ら」と表現している。
- ・学校の名前（略称）が入っている。
- ・色の名前が入っている。
- ・場所の名前（地名）が入っている。
- ・身体の部位の名前が入っている。

### 3.2 歌詞に学校名が入っているか

学校名が入っている学校…79校

地名として入っている学校…7校

略称が入っている学校…2校

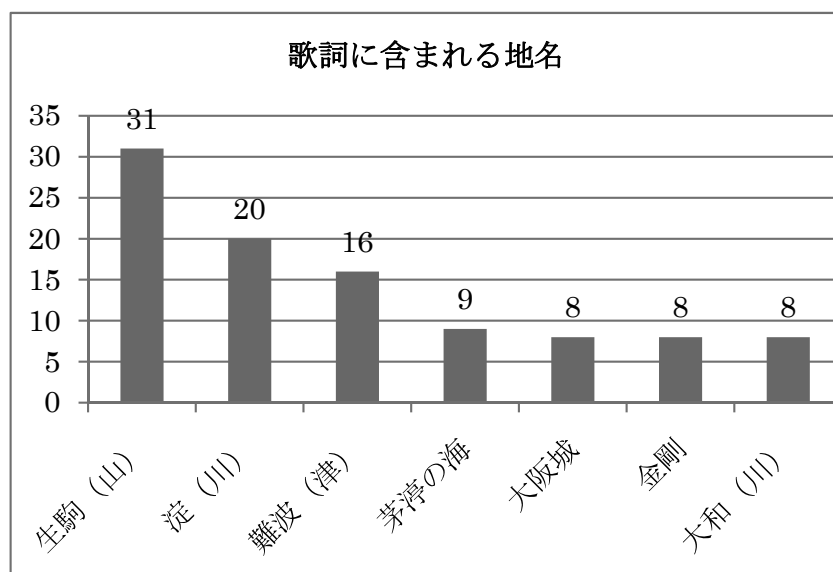
入っていない学校…12校

約八割の校歌に学校名が入っていることが分かった。

### 3.3 歌詞に含まれる地名 100校中90校

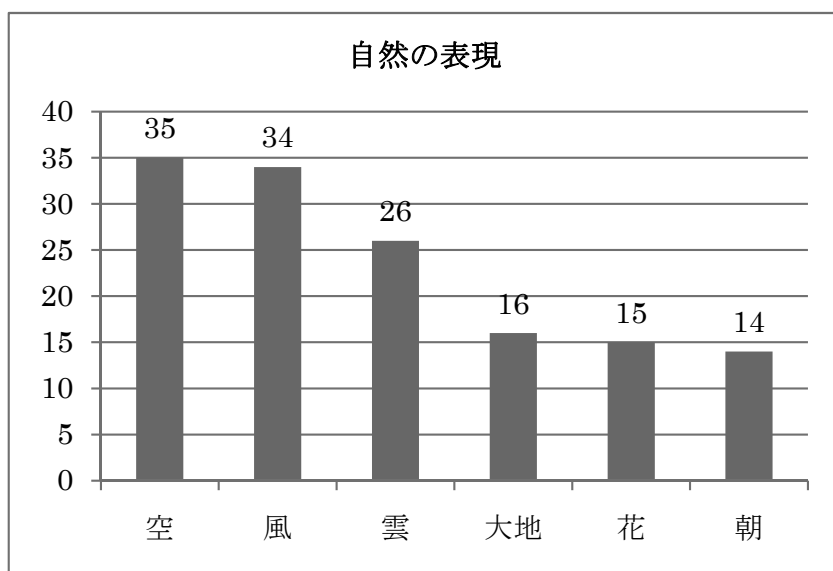
山は遠くからでもよく見えるため使用している学校が多い。生駒、金剛のほかにも、六甲山や昭和山を使う学校もあった。川の種類もなかなか多い。淀川がもちろん一番多かったが、他にも木津川、神崎川、大川、大和川など。山と違い、離れると見えなくなるため学校の場所がかなり影響した。北区、都島区などの北部では淀川が多いが、大正区まで来

ると木津川が出てくる。淀川区などでは、淀川のさらに北にある神崎川も登場していた。



その他  
 日本(7)  
 難波の宮(6)  
 木津川(5)  
 河内平野(4)  
 六甲(3)  
 上町(3)

### 3.4 自然の表現 100校中91校

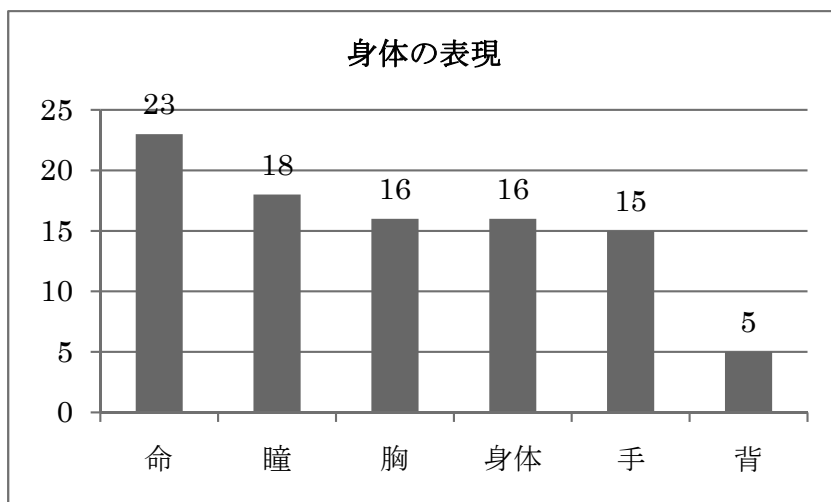


自然群は地名と似ているが、特に場所の指定がないものだけをここに入れた。

その他  
 潮(11),  
 波(11), 陽(10),  
 山(10), 海(9),  
 星(8), 雪(8),  
 木(8)

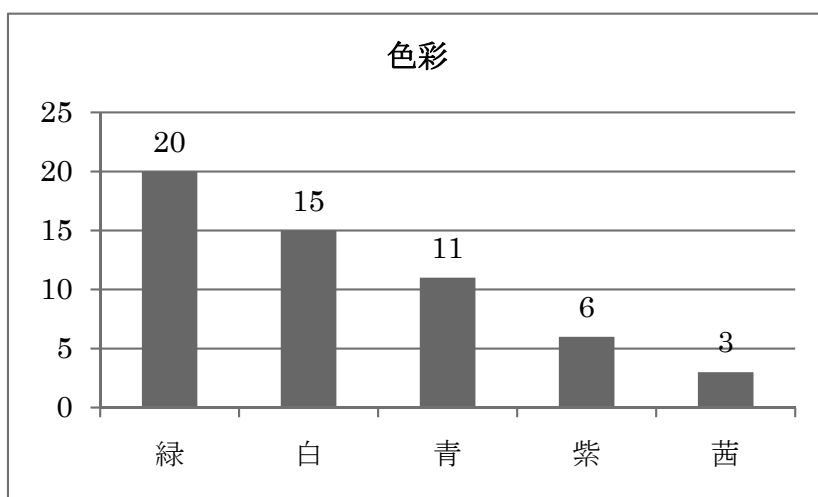
### 3.5 身体の表現 100校中69校

目や胸は生徒本人を表しているようだが、命や身体などは生徒自体ではなく、成長していくことを意味することが多いようだ。



その他 肩(3), 足(3), 腕(2), 耳(2)

### 3.6 色彩の表現 100校中44校



その他 真紅(1), くれない(1), 黒(1)

緑が多いのは予想通りだったが、白は意外だった。白は清潔、清らかさなどを表しているようだ。

色を表す語句を入れている校歌は約4割ほどだった。

### 3.7 校歌は何番まであるものが多いか

3番まで…76校

2番まで…16校

4番まで…6校

1番まで…1校

番まで…1校

三番まである校歌がほとんどであることが分かった。前楽章と後楽章に分かれているものや、校歌とは別に、愛唱歌などがあるところもあった（愛唱歌は校歌数にはカウントしていない）。愛唱歌とは、学校がつくった校歌とは違い、生徒が作って歌うものである。

### 3.8 どの作詞・作曲家が多いか

#### 3.8.1 作詞者

一位…平林治徳（6校）

二位…小野十三郎（4校）

三位…安西冬衛（附中校歌作詞者）・今中楓溪（3校）

#### 3.8.2 作曲者

一位…野口源次郎（9校）

二位…山中次郎（7校）

三位…川澄健一（5校）

一般的に校歌を作る際、卒業生や音楽家の教師、または普通の作詞・作曲者に依頼するところが多いようだ。

大阪市立夕陽丘中学校と高津中学校（どちらも天王寺区）は作詞者が同じだが、校歌の歌詞がよく似ていた。例えば夕陽丘中学校では「しずかなり白亜の園生」の部分が高津中学校では「しずかなり平和の園生」になっていたり、他にも似たような部分がいくつかあった。

## 4. 考察

今回は、歌詞を中心に府中校歌を調べたりして気づいた・わかったことを参考に大阪市の中学校中100校を、「作詞・作曲者名」、「地名」、「自然の表現」、「身体の表現」、「学校名の有無」、「色彩の表現」、「校歌は何番まであるものが多いか」という七つの観点から分析した。たくさんの校歌を調べることで、附中校歌だけは分からなかったことも明らかになった。

まず、「地名」。特に学校のある場所によって内容が影響されていた。例えば、住之江区や平野区など、南の方にあるところでは川の名前に「大和川」が多かったのに対し、帰宅や都島区などの北の方では「淀川」が多かった。また、全体的に見ると大和川よりも淀川の方が使われている回数が多かったのは、場所と大阪市における重要度の差だと思われる。淀川は市の中に入っているが、大和川は市の南端にある。

次に、「自然の表現」の中で、「空」や「風」、「雲」などの空に関するものや、「波」や「潮」などの海に関するものなどが多かった。

また、身体部位やそのものを表す言葉を使っているのは、69校（65%）だった。「身体」や「命」など、全身を表す言葉の方が、「目」や「胸」などの身体の一部を表す言葉も多かった。

学校名は、予想していたよりも入っている学校が多かった。私がたまたま今まで校歌に校名が入っていなかったり、省略された言い方の校歌しか見てこなかったりしたからかもしれないが、ほとんどの学校の校歌の最後に「ああ〇〇中学校」と入っているのが印象的だった。

色も結構種類が多くて、また似たような色を違う言い方で表してくるところがあった。合計で比較してみると緑や白などの方がずっと多いのに、なぜこんなに言い方が豊富なのかと疑問に思った。

最後に、「何番まであるものが多いか」では、3番まであるものが圧倒的に多かった。校歌には1校1校特色はあったが、やはり定石に従ったものが多かったようだ。

## 5. 結論

附中校歌から類推できた通り、校名や地名など典型的な言葉が入っている学校が多かった。地名では生駒山や淀川が多く、特に川は流域に沿って用いられる傾向があった。自然の表現では空や風、色彩では緑や白、身体表現では命や人見などの言葉が多く用いられた。

## 6. 参考文献

浅見雅子・北村眞一（1995）「校歌一心の原風景一」

牛島達郎（2001）「校歌に関する調査研究Ⅰ」—福岡市立小学校を中心に—

牛島達郎（2003）「校歌に関する調査研究Ⅱ」—福岡市と筑豊地区の中学校を中心に—

牛島達郎（2004）「校歌に関する調査研究Ⅲ」—佐賀県の高등학교を中心に—

高尾有里子（2014）校歌をめぐる表象文化研究

校歌こだわり調査隊◎（2004）「発掘！校歌なるほど雑学辞典」

～近代国家成立における校歌の制定過程と現代の諸状況を手がかりに～